

## はじめに

今なぜ、あなたは教職課程を履修しようとしているのでしょうか？

- ・小さい頃から教師になるのが夢だったから。
- ・子どもが大好きで、何としても子どもに関わる仕事がしたいから。
- ・中学の時に出会った先生に感銘を受け、自分もその先生のようになりたいたいから。
- ・英語が大好きなので、英語を生かした仕事に就きたいと考えたから。
- ・野球をがんばってきたが、プロ選手にはとてもなれない。高校の教師になれば、部活の指導などを通して一生野球に関われるから。もしかすると甲子園に出られるかも。
- ・まだまだ景気が不安定な中で、地方では教師は割合と安定した仕事だから。
- ・お父さんもお母さんもおじいさんもおばあさんも教師だった。ウチは教師一家だから、私が教師になるのは当然のこと。
- ・大学入学の際に、何か資格を取ることが親の条件だった。教師になる気はさらさらないけれど、上智で一番簡単に取れそうな資格が教職だったから。

いろいろありますねえ。まあ、今のところの理由は特に問わないことにしましょう。これから教職課程で学ぶうちに、大いに変わってくることもあるでしょうから。いや、大いに変わってもらわないと困ります。

というのも、みなさんはまだ、教師という仕事、学校という場所、子どもという存在、教科という領域の本質について、肝心なことは全然わかっていないからです。むしろ、すっかり誤解しているに違いない。

たとえば「小さい頃から教師になるのが夢だった」という、一番純粹な動機の人だって、もしかすると教師の仕事について好意的な誤解をしているかもしれない(実は私がそうでした。だから小学校の教師になるのをやめにして、大学に残ってしまった・・・)。実際、大学でいろいろと勉強するうちに、「なあんだ。先生ってそんなショウバイなわけ？ だったらやめた」って人は、少なくありません。

逆に、当初は「部活の指導」や「安定した仕事」だからという、少しばかり不純な理由で教職課程を履修してきた人が、勉強するうちに「へえー。教師ってそういう面もあるんだ。これは野球がどうのなんてことは置いといても、生涯をかけてやり抜くだけの価値のある仕事かもしれないぞ」なんて言い出すことも、これまた少なくないんですね。

だからまあ、今のところはどんな動機でここにやってきた人も、とにかくこの上智の教職課程でしっかりと教育について勉強して下さい。そうすれば、教師になるべきか、資格は取るけれど教師ではない別の道を歩むべきか、はたまた教職課程の履修自体を断念すべきか、比較的早い時期に見えてくるはずですよ。

一番いけないのは、不正確な知識、素人考えのまま漫然と教職の履修を続けることです。お断りしたように、あなたが今抱いている教師、学校、子ども、教科に対するイメージや理解は、およそ見当違いなものですからね。

もちろん、私たちスタッフとしても、そういったみなさんの学びの深まりと進路選択に関わる悩みについて、最大限のサポートができるよう、全力で努力していくつもりです。

というわけで、よろしくお願いたします。

2009年4月

教職課程委員会委員長